

町民総参加のまちづくりに全力

益城町議会議長 稲田 忠則

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様には、希望に満ちた新春をお健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、日頃から町議会に対し温かいご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご存じのとおり、町議会におきましては、昨年4月の改選により、新たに18名の議員が誕生いたしました。議員一同、益城町民の代表として、その役割と責任の重さを自覚し、決意も新たに町民の皆様のご期待に応えるよう誠心誠意、邁進してまいります。

昨年を振り返りますと、世界各地で年間を通じ非道なテロ事件が相次ぎ、日本人も犠牲となるなど被害が全世界的な規模にわたりました。国内でも阿蘇山を始めとする火山の噴火や異常気象による豪雨被害など暗いニュースが多かったような気がします。

しかし一方で、社会経済では、株価は高止まりが続き、ガソリン価格も下落するといった景気の回復が不安定ではありますが進んでいるようにも思えます。本町におきましても

住宅リフォーム制度やプレミアム商券事業が施行されましたことは記憶に新しいところであります。

そのような中、益城町では西村町政が2年目を迎え、議会としましては、安心・安全なまちづくりを目指し、執行部と互いに知恵を出し合いながら町民参画の町政運営に取り組まなければならないと考えているところでございます。

国政においては、内閣に「まち・ひと・しごと創生本部」が設置され、地方の町村では少子高齢化や過疎化のなかで、真に自立に向けた活性化策を自ら創造することが求められています。地方はまさに生き残りをかけた正念場を迎えているといっても過言ではありません。益城町におきましても、昨年末に益城町人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の答申が行われ、熊本市圏における連携中枢都市圏構想や、このたび国から採択された津森地区活性化事業である「ウーマン・ドリーム事業」など、今後ますます増大、多様化が見込まれる住民ニーズに

対応するための諸施策が既にスタートを切っております。

町議会としましては、厳しい財政運営のなか、財政健全化の取り組みと同時に、福祉、町おこし、産業、教育等、あらゆる部門で皆様のご意見を拝聴しながら、町民総参加のまちづくりに全力を傾注してまいり所存でございます。今後とも、町議会に對しまして、一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が町民の皆様にとりまして輝かしい一年となりますことを心よりご祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。

平成28年 新春

